第４回　桜井市総合計画審議会　議事要旨

令和元年 12 月 26 日（木）　14 時 00 分～

場所：市役所４階　第１委員会室

１．開会

○事務局

・これより、第４回桜井市総合計画審議会を開催させていただく。

○伊藤会長

・4 回目の今日は皆さんに意見を述べていただきたい点がある。次第に従って進めていくが、ご協力をよろしくお願い致します。

２．議事

（１）計画の趣旨と市の概要について事務局より説明を行った。

○伊藤会長

・事務局から説明があったが、この案件についてご意見を賜りたい。一部データの差し替え、更新はするということである。それ以外について何かあるか。社会動向については一般的なことが書かれている。漏れていることがあるとか、そういうご意見でもよい。

・P. 13、「(8) 地域経営」だが、ほかのデータは時系列に経年のデータを見ているが、ここだけ単年度である。なぜこうされているのか。よくなったとか悪くなったとか、特に悪くなったのであれば、だんだん経常収支比率が悪くなっているとか、そういうことを書いておかないと、これだけではわからない。

○事務局

・単年度ではよくなったか悪くなったかわからない。資料の見せ方についてはデータを前年度と比較するなど、変更させていただきたい。

○伊藤会長

・全国や奈良県と比べると高いというのはわかるが、義務的経費が増加しているというのがこれではわからない。

○事務局

・わかるように修正させていただく。

○中村委員

・概ねこれはこれでよいが、少子化、高齢化、日本の社会の行く末を見た場合に、桜井市はどんどん人口が減っている。地場産業が衰退している。歴史的な遺産である神社等の施設があるわけだが、それが生かされていないと思う。桜井市が今後 50 年、100 年に向かってどういう都市づくりをするのかを考えると、観光に特化しなければいけないのではないか。観光に特化するためには、旅行業社との提携、インフラ整備などがあるが、なかなか思うに任せない現状があると思う。

・今、市においては、市庁舎の建設、ルートインの建設があるが、例えばルートイン 1 つ取ってみても、実際に宿泊をされる方が桜井市でお金を使うかというと、ほとんど使う場所がない。飲食店が数件で、レストランで食事もできない。コンビニで晩飯を買って食べるとか、よそで食事をしてきてルートインで宿泊するとまちに賑わいや活性化が生まれないと思う。医療、福祉、さまざまなことがあるが、これからの桜井市の 50 年、100 年を考えると、桜井は観光で生きる。観光で生きるために旅行業者をどのように呼び込むか。商店街を再建するとか、店舗を誘致する、小売の起業をするなどやらないとどんどん人口が減ってしまうと思う。

・市の概要は非常によいが、明日の桜井市をどうするかという視点が入っているのか。概要は綿密に分析しているが、明日の桜井は何を目指すのか、こういうものはどうなのか。

○事務局

・今現状に対する分析をやっている。我々も痛切に感じている部分がある。次の基本構想と戦略プロジェクトでご説明する。

○菊川委員

・P. 16、「強み」の「健康・福祉」だが、陽だまりができて健康づくりに対しては進歩したと思う。地域包括ケアシステムの構築に関しては、最初は高齢者を守るという観点からスタートしたが、全国的には高齢者だけにとどまらず、全世代の人に対してケアをしていくものとなっている。ここでは簡単に触れられているだけで、恐らくこれから構築していくものだと思うが、今 5 カ所でやっているまちづくりとは別に、高齢者、弱者をケアするためのまちづくりをもう少し考えなければいけないと思う。いずれ亡くなっていく高齢者をどうするかをもっと視野に入れてまちづくりをしていかないと破綻してしまう。破綻するとどうなるかというと、在宅死というか、別の言い方をすると死体検案が増えてしまう。突然体調が悪くなって救急車を呼ぶため、救急車の出動が増える。運ばれなくて、家で亡くなっていた場合は死体検案になる。大都市で在宅死が増えていると喜んでいるところも、実は半分が死体検案である。この時点で盛り込むのは無理かもしれないが、そこを視野に入れないと地域包括ケアシステムというのはうまくいかないと思う。そこを加味していただきたい。

○伊藤会長

・おっしゃるとおりだと思う。皆様も熟読する時間がなかったと思うが、基本構想でも若干触れられている。具体的な戦略の中でも取り上げられていると思う。

○菅原委員

・菊川委員から指摘があったように、地域包括ケアシステムについては 3 年ぐらい前に地域包括ケアシステムを構築することが市町村の義務づけになった。桜井市は遅れている。現場の中で機運を盛り上げていただき、それから方向づけということで担当も頑張っているが、なかなか至っていないのが現実である。

○事務局

・社会福祉協議会も、私どもの福祉の関係課も地区社協も一緒になって頑張っていかないとなかなか構築できない。巻き込んでやっていこうと努力させていただく。来年には委員会組織を立ち上げ、そこである程度揉んでもらうような状況ができていると思う。

・その辺はこれからの市の課題となっているので、基本構想の中に反映していきたい。

○中村委員

・リハビリなど、入院した後の地域ケアシステムをきちんとやらないとこれから大変なことになる。ただ単に社協と相談といっても、社協の皆さんは人数も限られているし、なかなか無理な話である。市が本格的にそういうところに補助金を使ったり、開業医とも親密にやっていくようなシステムを作らないと、これからどんどん年寄りが増えて、病気になって、あとの健康な体を維持するためには大変な作業が要る。市民の命と暮らしを守る基本的なところなので、地域包括ケアシステムをもう少し実のあるものに、目標を立てて、そこに一歩一歩近づけるようにしないといけない。

○福本委員

・教育関係で、児童数の減少は全国的なもので、奈良県の人口は少なくなるだろう。桜井市の場合は幼稚園に就学する園児が大変減っている。先般、西幼稚園に行ってびっくりした。あまりにも減少がひどい。学年 10 名程度である。ほかの幼稚園も、織田纏向も全部幼稚園は減少している。保育所は何とか維持しながらも、全体的に減少しているから、相当数は減っている。将来的に就学前の子どもたちはどのように質を高めながら支援していくのか。病気や高齢者問題とともに、少子化に視点を当てた改革をしていかなければ桜井市としてもお先が真っ暗な感じがする。

・若い世代がいかに移住してもらえるのか、定住してもらうのか、その展望を、何でこうなってきたのかという 1 つの視点が明記されてもいいのではないか。現状維持の分析だけでは先が見えてこない。

・もう 1 つは、昔は三輪そうめんしか知らなかったが、今は兵庫県もあるし岐阜県の養老にも出てきて、かなりそちらのほうを買うようになった。元祖三輪そうめんの名前そのものの認知が下がってきている。ブランド的な三輪そうめんがなぜそれほど認知が低下してきたのか。PR 不足なのか、質の問題なのか。三輪が駄目になったのか。そうめん組合の方とか大手もあるが、その辺のところも押さえていかなければ、かつての地場産業を復活する、再生すると言っても、その視点がわからないと思う。できたらどこかに明記しながら、次の課題を克服していく展望が読み取れたらありがたい。

○東委員

・「脅威」の中で、異常気象のせいで風水害の被害がかなり出ている。桜井市内においては避難場所が各小学校だけしかないと思うが、きめ細かな避難場所の設定が必要だと思う。
・1 つの小学校を捉えても、そこまで行けない場合が多い。桜井市は今のところ水害等の被害がないが、いつ起こるかわからない。そういう考え方を検討していただきたい。

○伊藤会長

・先ほど安全・安心のところでハザードマップの話があったが、現実の問題として避難場所に行っても収容しきれないという問題が起きているようである。どこに避難所があり、収容能力はいくらで、実際にカバーできるのかどうか、そのあたりの検討が必要である。

○事務局

・避難場所については、市の指定場所として各小学校が指定されている。実際に大雨のときなどそこまで移動するのが厳しいということもある。
・この間から各自治会からも話があり、各自治会で避難所を準備して近くに避難してもらうことも必要ではないかということで、危機管理課でもやっている。もう少し時間をいただき、自治会と協定を結ぶ中で、近くの避難所を利用していただくというルールを決めたいと思っている。公共施設も近くにあるので、できるだけ開けられるようにと考えている。
・実際災害のときは、職員は災害対応に取り組んでいる。職員がすべて避難所に行くと本部が手薄になってしまうため、自治会と十分調整する必要があると考えている。
・どんな災害が想定されるかわからない。今年もいろいろな状況があったので、検討させていただく。
・就学前の子ども、小中学校の子どもの数も含めて減ってきており、それに対して、子どもを多く増やすという抜本的な対策はなかなかないと思う。人口問題研究所の推計で見るとかなり人口は減っていくし、桜井市でも出生率は下がってきている。そうなると今ある小学校、中学校、幼稚園、保育所をそのままの形で維持することは難しい。
・幼稚園、保育所、小中学校をこれからどうしていくのかという方針を計画として出させていただき、特に小中学校については 12 月議会である程度まとめた計画書で説明させていただいて、1 月からパブリックコメントを実施する。どれぐらいの規模が子どもにとって教育の効果があるのかという、学級数などは文科省が示している。それに近づけるような状況の中で考えようということで、総合計画とは別に一定の具体的な計画として作らせていただく。

○伊藤会長

・ほかにはあるか。

・次の基本構想でかなり具体的なことが出てくるので、そこで議論していただきたい。

・計画の趣旨と市の概要案は一部修正するということで、ハザードマップは新しいものに差し替える、「(8) 地域経営」について経年変化がわかるデータと入れ替えるという条件付きでこの計画の趣旨と市の概要案については決定させていただいてよろしいか。

○委員一同

・はい。

○伊藤会長

・ありがとうございます。

（２）基本構想案について事務局より説明を行った。

○伊藤会長

・説明内容についてご意見、ご質問があればお願いする。将来像については最後に議論するため、内容からお願いする。

○和田委員

・将来都市像について説明いただいた。令和 3 年（平成 33 年）12 月には生産緑地が解除になる。2 年後をにらんで、生産緑地をどうするのかということが将来像にとって非常に影響を持つのではないか。その点について試案が入っているのかどうかお聞きしたい。

○事務局

・桜井の場合、中和幹線に特化して言うと、商業系の誘致をやっているが、なかなか当初の目的どおりに行っていない。生産緑地の関連になると、それぞれの地権者の方がおられるので、その方々の意向も含めて、市だけが旗振りしてこうしたいと言ってもなかなかできない面もある。十分地権者の方と土地利用も含めて考えていかなければならないと思っている。

・実際に農業地を開発に使うと、その分、別の場所で農地を確保しなければいけない。開発と農業等、他の産業との兼ね合いが非常に難しい面もあり、個々の土地の中で対応すべき問題もあるのではないかと思っている。

・P. 20 では将来都市構造の中でいろいろな軸を示しており、この軸を中心にまちづくりをやっていくということを考えている。今おっしゃったことについては、具体的にどうするという回答をこの中に書き込むことは難しい。今のご質問に対する回答にならないが、十分市の中でも検討しながらその辺の方向性を決めていかなければならないと思っている。

○和田委員

・用地の用途を市として考えていく必要があると感じた。そういう意味では、この用地の用途について何らかの検討を要することについて、いい案があればまた出

すし、会長からも意見を出していただけるとありがたい。

○杉本委員

・今生産緑地の話が出ているが、近年起こっていることは、高齢者になって農地を維持する人がいないということ。農業委員会で農地を管理して、適正な農地を確保しようと言っていたが、もう山林、原野になっており、農地にできない。そういう中で、農業委員会も維持しようとしているが、手に負えない。就農者がいないというのが現実。今農業をやっているのは60代以降の企業を辞めた人が帰ってきてちょっとしている程度であるというのが現状だ。

・自治会や地域で包括経営をやっていかなければいけない。自治会で一番力を入れなければならないのは防災である。どこへ避難するのか。一人暮らしの高齢者がどんどん増えている。2階があれば2階へ行く。それくらいしか動けない人が一人で住んでいるという状況がある。隣人同士で連携を図っているが、隣人も70代や80代である。少子高齢化が進むのはわかっているから、もっと市で考えてもらわないと。次の世代は社会構造の中では必要だが、そこらはもうちょっと具体的なところを特記してもらったほうがいいと思う。

○伊藤会長

・農業については後継者不足の問題と、耕作放棄地の問題、桜井市の産業として農業をどうするかという1つ大きな課題がある。そこのところは市だけでは解決できない問題である。生産緑地のほうはまた制度が変わって延長できるようになったが、それを維持できるかどうかはまた別の問題である。そのあたりはすぐに解決できないが、課題としては認識されている。どこかの中にそれを書き込んで、“課題としてはあって、その課題に対してどのような対応をしていくかということは検討すべきである”そういうことを書いていただければ、継続して考えられると思う。

○事務局

・今問題提起していただいた部分については複合的に絡み合っているので、書きぶりを含めて事務局のほうで検討させていただく。

○伊藤会長

・委員のご意向を反映していただきたい。

○中村委員

・P.19、拠点の展望と書いてあるが、桜井のまちを歩いてみると、食事をする場所やくつろげる場所がない。

・県と桜井市は5つのまちづくり協定を結んでいる。その中で今一番注目すべきは、安倍地区のNAFICである。10年すれば人の流れがNAFICを中心とした安倍地区に傾斜すると思う。具体的には、バーベキューを含めて手軽に市民の皆さんや観光客が来て食事ができる施設。そこに私はクジラの肉やジビエとかいろいろ提案しているが、必ずそういう施設もできる。セミナーハウスに世界各国から学者など

が来て研修して宿泊できる施設もできる。

・さらに今の場所から20m、30m上に物見台を作って、温泉つきの国際高級ホテルを作ろうと調査している。そうすると拠点の展望の中では単に安倍地区と書いているだけであるが、これからの桜井、10年後の桜井はNAFIC周辺がかなり注目されるのではないか。

・もう1つは農業の問題で、意欲のある方が大和産の農作物を生産し、協議会を作って、その作った農作物をNAFICで使おうと動いている。P.19にはもう少し記述として、安倍地区というだけでなく、NAFIC 周辺地区の整備という固有名詞を入れたほうがよい。

・もう1つ、これは法律的にどうかわからないが、幼保一体の話があったが、幼稚園や保育園の経営は民間に任せる。公は手を引き、幼保一体の幼稚園を目指すということを計画に掲げるのも1つの方法ではないか。これは私の意見で終わっておくが、事務局としてまた考えもてもらいたい。

○福本委員

・幼稚園から公が引くというのは、和歌山はそうなっている。保育所は市がやり、幼稚園からは手を引いている。そういう方向で桜井市も行くかどうか議論しなければここに書き入れるのは難しいと思う。

○事務局

・保育所だが、市でも既に就学前の部分で基本方針を出している。民間に移行しようとしている。施設整備も含めて、公がやると厚労省も含めてほとんど補助が出ないので、民間経営へシフトするという方針を今持っているが、まだ施設整備まで行っていない。

○中村委員

・決断の時期である。市のやることはいつも遅い。

○事務局

・NAFICの件だが、市としても、世界遺産登録を視野に入れており、NAFIC周辺については非常に有望な地域と考えている。これについてはこの後、説明させていただくが、「戦略的プロジェクト案」の「魅力的に働く場を創出する戦略プロジェクト」の中で「NAFIC と山の辺の道を中心とした賑わい創出」として、天理の芸術家村とNAFICを連携し活性化させようという、知事の提唱されている部分についても触れさせていただいている。位置づけをさせていただきたい。

○杉本委員

・NAFIC周辺では今「NAFIC周辺賑わいづくり協議会」を進めている。

・今年度も予算が若干あるので、進める。

○伊藤会長

・将来像についてご意見を賜りたい。

・3つの候補があるが、得票数というのは何の得票数か。

○事務局

・ここに掲載しているのは 3 案であるが、当初事務局と係長級の職員からなる作業部会でも案を出して、10 案ほどあった。そこから審議会にかけさせていただくにあたり上位 3 案に絞ろうということで、作業部会で投票して上位 3 つを掲載している。

○伊藤会長

・今日皆さんにこれを決めていただきたいということである。

・1 番はシンプルでわかりやすい。それぞれイメージも書かれている。多数決で決めるものなのかわからないが、できれば皆さんがこれならいいということで決められたらよい。どうしても今日決めかねる場合は、後日決めるという方法もある。決め方、あるいは内容についてご意見はないか。

○伊藤会長

・市民目線で考えると 1 番がシンプルでいいと思うが、歴史や自然、はじまりの地、万葉など、これも桜井固有のものである。こういうものを入れたいということである。

・2 番は特に個性はない。ただ、生活する場として住んでよし、訪れてよし、笑顔あふれるふれあいのまちだということである。

・1 番と 2 番は市民の暮らし方みたいなことである。3 番目は桜井市の特性を出している。どうだろうか。

・前回の第 5 次では「観光・産業創造都市」と書いて、サブタイトルに中身を入れるパターンだった。

○中村委員

・これ以上案も出てこないだろう。

○伊藤会長

・第 5 次はイメージがある。「観光・産業創造都市」とやって、市民生活と桜井市の誇りを前面に出しているというところが違う。

・どうするか。全員一致でこれがいいというのはなかなか出せそうもない。

・皆さんがよければ、今日は一旦持ち帰っていただき、期限を切って事務局に意見をもらい、集約したものにして、それをまた皆さんに返すという方法もある。

○委員

・意見がある方は後日出してはどうか。

○伊藤会長

・これをベースに考えてもらいたい。皆さんの意見を集約したものが出てくればそれでどうだろうかということを返して、ご異論がなければそれで決める。そういう形でよいか。

○委員一同

・はい。

○伊藤会長

・いろいろご意見をいただいた。一部意見は反映されるかもしれないが、基本的にこれでよいか。

○委員一同

・はい。

（３）基本計画案について事務局より説明を行った。

○伊藤会長

・今の説明内容についてご意見はあるか。

・分離したり統合したりということで、施策、計画を考えていく上で、この場で委員の皆さんに理解しいただく上では、計画策定のプロセスが大事である。こういうプロセスで進めているということを理解いただきたい。まだこれから変更する可能性はあるが、今のところはよろしいだろうか。

○菅原委員

・バリアフリーの件だが、ほかの施策のところでこれから出てくるのか。例えば道もそうだが、公共機関、建物のバリアフリーを進めていくということも、そちらのほうでも記載して進めていくのか。

○事務局

・バリアフリー化については計画の中で当然触れていく。

○菅原委員

・触れられるのであればよい。

○事務局

・全くなくすということではない。

○伊藤会長

・これは要するにハード面である。バリアフリーはソフト面もある。それは教育とかいろいろなところに出てくる。そういう意味でのバリアフリーに対する考え方を計画の中に反映していくとよい。個別具体的な計画の中で触れていただくということで、ソフト面も考えてほしい。

（４）戦略的プロジェクト案について事務局より説明を行った。

○伊藤会長

・説明内容についてご意見をお願いする。

○和田委員

・基本目標４に桜井市がしっかりと取り組んでいる「人権尊重のまちづくり」を入れてはどうか。国でも差別、人権の取り組みを強めている関係もあり、これから必要なまちづくりだと思う。

○伊藤会長

・人権について、目標 4 に入るのか、3 に入るのか。快適、安心ということで、4 のほうがおさまりはいいか。
・ほかにないか。
・10 年、20 年かかるような課題もあるが、戦略的プロジェクトということで、とりあえず総合戦略の 5 年間に特に重点を置いて戦略的に取り組みたいということである。
・私から質問だが、「戦略的プロジェクトとは」と書いてある中に、今 4 つ説明いただいたが、右側に「取組の視点」や「実現すべき目標」と書いてある。「取組の視点」の中で、1 つ目と 1 番とが対応しているわけではなく、1 から 4 まで全体を通してということか。

○事務局
・そうである。

○伊藤会長
・「中長期的ビジョンに基づく地域マネジメント」の「中長期的ビジョン」というのは総合計画をイメージしたらよいのか。

○事務局
・そうである。

○藤井委員
・基本目標 1 だが、桜井市の地場産業であるそうめんや乾麺のことは含まれていると思うが、具体的にここに書いてあることが目標というか、ここに数値的目標とかそういうものはすべて入っているのか。文言だけの目標か。

○事務局
・この戦略的プロジェクトについては総合戦略の核になるものである。国では総合戦略を策定するに当たって、KPI 等の数値をきちんと設定して、目標設定をしながら実施をしていくようにということで方向性を出していただいている。エビデンスに基づいて数値で考えていきたい。

○藤井委員
・第 5 次の総合計画はまだ継続中である。それに対しての成果はまだわからない。それらを考慮した上で、今回の計画に引き続き入れるものは入れる、その時点で終了するものは終了するのか。

○事務局
・第 5 次総合計画についてはまだ進行中であるが、計画策定に当たっては、何らかの形で評価をしないと計画を立てられない。第 1 回目に示したように、仮総括をした上で今の計画の策定を検討している状況である。

○藤井委員
・中身的にはいろいろなものを多岐にわたって出していただいているので前回よりわかりやすくなっていると思う。詳細な部分の目標も一緒に含んでおいていただ

けたらありがたい。よろしくお願いしたい。

○福本委員

・関係人口の増加が実践すべき目標となっている。これは対策していく上で非常に大きな力になってくるのではないかと思う。

・2 月中旬に総務省が中心になって関係人口の創出事業の交流会をやっていた映像を見たことがある。関心のある地方公共団体と事業者とが報告会をやっている映像だった。はっと思ったのだが、桜井市のような小都市の中で、関係人口をうまく活用して地域の活性化につないでいく事業が報告されている。学ぶべき中身だった。都市の人材と桜井市が共同して何かを進めていくという取り組み。もう 1 つは地域にルーツのある人、桜井市に生まれて外に出ている人たちと連携して活性化を図っていく取り組み。もう 1 つは、意外だったのが、ふるさと納税を継続して続けていく中で連携を図っていく取り組み、3 つの視点があったと思う。関係人口の増加というのは大変難しい問題があるが、具体的にどうすればいいかわからないが、関心のある実現目標ではないか。これを何らかの形でうまく連携を取りながら地域の活性化につなげていく。いくつかのところで取り入れられる中身がある。これはぜひとも実現させていただきたい。

○伊藤会長

・関係人口といっても多様である。ターゲットをうまく絞り、戦略に持っていくというご意見だと思う。

○菊川委員

・基本目標 4 で医療のことだが、地域医療提供体制の充実、今後の検討であるならば構わないが、何らかの具体例を想定しているなら、教えていただければそれに向かって医師会も検討すべきテーマだと思う。これからのことであれば構わないが、何か具体例があるのか。

○事務局

・担当課とともに具体化に向けて検討を進めているところである。これについては随時報告をさせていただき、ご意見をいただきながら進めていきたい。

○菊川委員

・奈良県としても、国としても医療体制の確保というのは問題になっている。改善しなければならない点があるが、あまりにも問題が大きすぎて、なかなか桜井市の医師会レベルで動けるものではない。もし何か具体例を持っておられたら、そちらは実現できるのであればと思った。また検討していただきたい。

○山本委員

・地域包括ケアシステムを来年度から策定するという話だったが、日本建築士連合会という全国組織の中で情報としてあるのが、福祉部会というのがあり、全国的にケアシステムに建築士が関わっているという情報がある。もし来年度そういう形で策定のお手伝いからできたらと思っている。お声がけいただきたい。

○伊藤会長

・終了時刻が近づいてきた。ほかは特にご意見はないか。

○福井委員

・昔、よく若者の出会いというのがあちこちでやっていたが、その後そういうことはあまり聞かない。市として何かそういう出会いの場所とか、何かをすれば少しでも繋がってくるのではないか。婚活みたいなものが。

○事務局

・出会って、結婚していただくということを促進していくということが大事だと考えている。これについては広域的な取り組みで、県が出会いの場を設定して、いろいろな婚活イベントをしている。まずはそちらとうまく連携しながら婚活の取り組みを進めさせていただきたいと考えている。

・今ご指摘をいただいたように、民間でも取り組みをしていただいている。民間団体とも連携しながら、幅広い出会いの機会を設けたいと思っている。

○菅原委員

・今の回答の件だが、PR が不足している。記紀万葉プロジェクトをやっているが、駅前、近鉄にお願いしたりして、小さいポスターを貼ってあるだけである。私は朝倉台だが、わざわざ朝倉台までパンフレットをもらいに来る。

・朝倉台ではホームページを作っている。他の地域の奥様方からメールが届く。そこの小学校はどんな小学校か、自治会費はいくらかとか、要するに引っ越しを考えておられる。そのときに聞くのが不動産屋以外、聞き込みができないので、こちらのホームページを見に来ている。PR という点も考えていただきたい。

○伊藤会長

・これで案件はすべて終了した。

３．その他

○事務局

・2 点ご連絡する。

・1 点目、基本構想案の将来像候補については年明け早々に文書で委員に連絡差し上げ、ご意見を伺いたいと思っているので、よろしくお願いしたい。

・2 点目、審議会は今年度中にもう 1 回開催したいと考えている。早くても 2 月中下旬になると思うが、日程については改めてご案内する。

以上